



「ベッドコールを上手く活用して、より安全な看護現場に！」

転倒・転落対策に導入頂いている、テクノスジャパンの離床センサーは、床敷きタイプのセンサーがほとんどです。しかし最近では、ベッドから降りたタイミングではなく、もっと早い段階での報知、より早い対応が求められるという現場様の声も聞きます。そういった中、導入が伸びているのが、ベッド上で起き上がったことを報知する『ベッドコール』です。『ベッドコール』使用のポイント、活用の工夫などを特集しましたので、ご参考ください。

●ベッドコールはどのような人に効果的？

ベッド上で
起き上がったことを
報知します



- * ベッドからの離床が転落に結びつく危険度が高い方
- * 動きがすばやく、床敷きタイプのセンサーでは対応が間に合わない方
- * 最も早めの検知が必要な方

●ベッドコール使用のポイントは？

正しい設置位置を確認しましょう！

起き上がりを報知するタイプのセンサーを使用したことがある方からよく聞くのが、「頻繁に報知して困る」「誤報がある」です。しかし、これは設置位置や併用マットレスに起因するものが少なくありません。設置位置や使用方法をよく知り、活用することも大切です。

☆設置のポイント☆

- ベッドに対し、横向きに設置
- 肩から背中にかけて設置
- 使用マットレスを確認
※詳細は右下緑の欄へ



こんな活用工夫があります！

ベッドコールは敷き位置によっては、誤作動や頻回報知が起こるため、設置が大変重要になってきます。そこで、敷き位置をスタッフ全員が正確に把握できるよう、テープでしるしを付けている病院様もあります。



シーツ交換などで
センサーを移動させても、
敷き位置が一目でわかる！

センサーに慣れていない
スタッフも設置が簡単！

ベッドコール使用が困難な場合は…

ベッドコールは、センサーに荷重がかかり、その荷重がなくなったことを報知しますので、マットレスの硬さや厚みによっては、上手くご使用頂けないこともあります。

* ご使用頂けないマットレス（圧力が上手くかかりにくいもの）
例）体圧分散マット、エアマット など



ベッドコールがお使い頂けない場合は、赤外線コールなどをご利用して、ベッド足などに取り付けて下さい。

また、柵を握ったタイミングで報知するタッチコールや、ベッドの端に寄ったタイミングで報知するサイドコールなどもご用意しております。